



繪本通俗三國志

六編

八

21
221
58



於
221
58

東京
學校



みちんぶろくまんざくろくへんまきの
繪本通俗三國志六篇卷之八

目錄

孔明計伏姜維

孔明祁山破曹真

孔明大破鉄車兵



繪本通俗三國志六篇卷之八

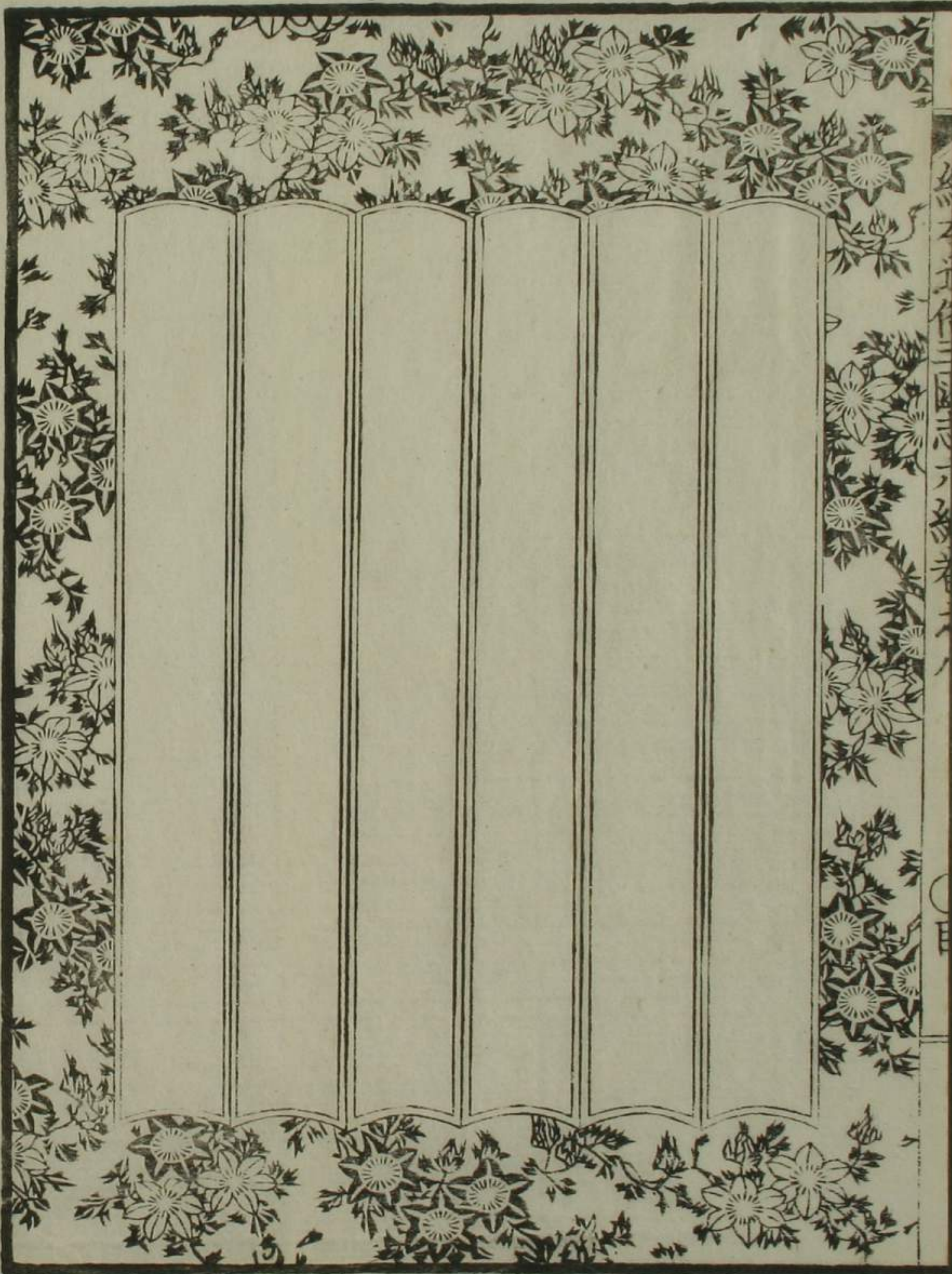
繪本通俗三國志六篇卷之八



繪本通俗三國志六編卷之八

孔明智伏姜維

天水郡の太守馬遵は復侯楨が南安の城をかまひしる。ま
 りつゝの大將とあひしる。如何せんを議しけし。功曹梁
 緒主簿尹賞主記梁夏等とて出と曰く。復侯騎馬の金枝
 玉葉はあやまちあるに隣に居あぐら。救さぬの罪はゆる
 太守を兵と起し。救ひる人とてむるを。たちまち魏乃
 大將裴緒といふもの復侯騎馬の使とりし。馬遵よひ
 れ。問けし。裴緒汗を湿たる書簡を。生を馬遵ひらき。え
 る。今。西郡の勢を起し。南安城の後攻をせよ。しる。馬遵
 裴緒を。客屋に入し。休息させ。廻文を。しる。兵とあひし



繪本通俗三國志六編卷之八

けいふべ次の日。人走り来り。安定の太守の兵を引く。早打立人
り。速く向ひ来ると。催促も。馬遵もものも取めむすむ
城を出んとさるる。一人外より来り。無用く。太守もや。孔
明が計正る。落さるる。入りと。さぐる。謀人こそ。や。を天水
冀城の人。姜維字の伯約あり。父姜冏の戎狄を攻め討死
し。姜維のけいふきあり。母もひそく孝を尽し。博く群書を誦と。
兵法武藝。とくぐ。通せむ。といふ。とは。太守馬遵問く曰く。
御辺ある人。無用といふ。姜維が曰く。孔明ちうさる。南安の
城を囲んで。その密しき。水も社むと承めへる。何とく城中よ
り。使の生ると得。況んや裴緒といふ。卒の魏の大將
とさる。とと。まか。今又安定郡の使。早く出るとさる。

りのみ。書簡と。持来らる。ちうさる。能くあつ。人の
人の蜀の兵を。詔り。魏の大將裴緒といふ。そのあら。太守
の城で生れ。やれ。善く。伏兵を置。その備。あま
と攻城と取んと計。のさる。か。う。く。生
とある。馬遵げ。と。悟り。曰く。姜維が教。ある。我
ら。敵の計。陥らん。今。今。推。ぐ。ま
姜維が曰く。ちうさ。破る。難。ま。は。裴緒が首。と。列。是
馬遵が曰く。一突の使あり。軽。我。あ。後。日。の。罪。逃
れ。か。ら。ん。姜維が曰く。ん。や。と。あ。某。一。の。計。あり。
孔明と。さ。る。馬遵が曰く。い。ん。姜維が曰く。た。の。城
の後。う。さ。敵の伏兵あら。某。五。千。余。騎。

新編通鑑纂要卷之六

と率し。要害の埋伏とす。太守の南安城の後攻に向と
号し。城を生ると三十里をかりとす。又取と返し。火の手を
あざむく。合図を尽く討と出前後より攻破す。孔明は
その中よりあらば某より槍をせん馬遵とよふことばた
今後攻むいふと沙汰し。自ら兵を引く。城を生梁緒尹
賞とす。城をまのし。その外の勢を。城外の埋伏も
孔明の趙雲の一手の勢を付と。天水郡の山中の伏置太守馬
遵が城を生ると伺ひ。まは攻蕙り。その備あまて破れて
下知し。けし。趙雲今や出ると侍る。存候の士卒走ま
り。只今太守馬遵城を生と南安郡の方へ向ると告げ
ば趙雲よると。張翼高翔の告まらせ。馬遵が行先

てさそぎし。自ら五千余騎を率し。天水の城をよせ
四方より喊を作り。大音あげ。常山の趙雲も。汝も我
計とよ落たるをまりたる。早く門を開き。一人も残さ
斬殺さん。とぶりけし。城中よりと笑し。声し。大将
梁緒矢倉より上り。汝もを。我姜將軍の計を落され。刀
の頸を臨む。相待く。いひけし。趙雲の義を。二探
と攻破し。と下知し。四方より蕙らん。とをれ。城中より兩
のふる。とく矢を射。俄に喊の声。後よひ。四方に火乃
手とあげ。れ。趙雲大よ。どろき。ま。何の敵と。後と
ま。と。羊若き。大将。馬と躍ら。鎗をひ
のさげ。大音あげ。汝天水の姜維を。まりたる。か。とぶり。

天水郡
趙雲
姜維
鎗法
驚嘆



姜維

趙雲

蜀兵



蜀兵

繪本通合三國志六編卷八

四

繪本通合三國志六編卷八

三

趙雲てううんは突つく蒐さうる。趙雲馬てううんばをまどへんと。とんぐは戦いくさひけるが力ちから壯たくましく。鎗やりの法ちやうの常つねするらざりし。くべんの内うちちよどろき。そのあつ此こゝのとき名將めいしやうあどしへ思おもはせし。たかめあふ。又また喊こゑの音ね天地てんちを碎くだく如ごとく二手にしゆの勢せいまひてかゝる。されとあへち馬ば遵じゆん梁りやう慶けいあり。四方しやうを囲かこんで。餘あまさどと攻せまけ且かつて趙雲てううん小勢せうせいもく。さんぐは乱ごんれ。まよさたよと逃にげける。姜維きやうい勢せいひよの山やまを追おつ蒐さう息いきをも継つぐ。兵へいをまぢりし。趙雲てううんとくは危あやうく。とへともあふ。蜀しやくの大將たいしやう張翼ちやうよく高翔かうしやう二手にしゆの勢せいをせ来まり。やうくは救すくひ回まる。趙雲てううん敗軍ばいぐんを収ちぢむ。孔明こうめいは見みへ姜維きやういと云いふの計けいを用もちひ。味方あつち志しと加くふ討うたりと告つげ且かつて孔明こうめいれどろひとけり。姜維きやういは我わが計けいとの玄機げんきをまりたる。

南安郡なんあんぐんの人ひとあり。名な曰いく姜維きやうい。字あざなは伯約はくやくとく。天水郡てんすいぐん冀城きじやうの人ひとあり。母ははは事ことに至いたる孝かうあり。文武ぶんぶ兼あり。智ち勇ゆう衆しゆは出でたり。まよとふ當世たうせいの英雄いゆうまよゆ。趙雲てううんが曰いく汝なんぢがゆふもあどし姜維きやういが鎗やりの法ちやうもよ。七なな十じゆもあよども未まだとんも孔明こうめいが曰いく。天水郡てんすいぐんを取とり。掌てのひらあり。とあひかへし。量りやうらざりまよ。その人ひとあらんと。まよ大軍たいぐんを引ひく。まよ兵へいと。まよひ城じやうを攻破せふひ。まよ姜維きやういを生取いけんと。まよ兵へいと。まよ城じやう中ちゆうは回まり。太守たうしゆと。発向はつちやうと。去程きよちやうは姜維きやういの勝軍しやうぐんと。まよ城じやう中ちゆうは回まり。太守たうしゆ馬ば遵じゆんはむらひとけり。今いま趙雲てううん敗ばいれ。逃にげ去さり。孔明こうめい又またまよ重おもく用もちひん。は孔明こうめいまよ來まらば。いふとく拒こぐまよ。

姜維曰。某量る孔明定めて敵は城の中ありとあやひ
 ひとと城を圍んぞ。攻んとす。今味方の勢を四手よまけ
 某一軍を引く。城の東に埋伏し敵の後をさへぎらんと。太守
 へ梁度尹賞と。三手よ分ると。城外に伏し人馬遣は
 らんと。梁緒と。あやめと。城をまわらせ。みま外に
 出く四方の谷
 又埋伏し孔明へ姜維軍立と。んまくあやひけき自ら
 先手よとんと。天水の城よあやせ。下知と傳く
 ちける。あよと敵の城を攻るまへとめと向ふ日と肝要とし兵と
 勵。氣のめと攻破と。若日と夜と経ぬれをあやしく落
 すとぬものぞし。汝ホとろくの大將三軍のんと勇と
 ちるよまそひかめと切とも射とも用ひと乗とるく攻入

ぞとと。攻鼓と打けよ。大軍あどと。猶預とんま。あめき叫
 んで。壕と渡り。壁よりめき勢ひのめと攻かると。さよと
 城中え。鳴をまめと音もせと。忽然と。鉄炮とひら
 ちけるが。あれを合図と。いろくの旗をはしあげ四方の櫓
 より雨の降と。矢を射け大木大石を投たりけよ。蜀
 の軍勢手負死んその板と。すよ。夜半の比と。及ん
 で。俄と四方より火を付と。喊の音と。天を碎と。鼓の音と。地と
 ぶと。蜀の軍勢。あやめと。敵ともあらと。あ肝とひやと
 ぬ。城の内も鉦と鳴と。喊の音と。合せけよ。孔明と。あ
 ども。急と。あやめと。あんと。あ四方の敵軍。潮の湧と。あ
 列色と。あ攻かり。城の内より。あ鋒と。あ揃と。あ討と。あ出けと。あ蜀

の勢ささんぐふ乱と討るる麻の正孔明へ関真飛竜
 又扶けらしと困を出入り走りけしと東の方より一手の勢路と
 横切火の光天と焦しくそのまきちひ長蛇の正孔明され
 ととく長く喋どその勢のちうく大勢とつたをた大将
 の勢の立様よより真の稀なる奇才あり関真さまを
 ささんぐふと恭まじひけしと関真やうて馳回りし
 姜維が勢ありとやと孔明嗟嘆しく已む後よりそや
 敵軍追うけ来りけしと姜維がもるふ是非なく討入
 後走りける蜀の勢をばしく討れけり孔明敗軍を
 引と本陣を回りやう久しく計と思索し左右をかえり
 て中ける量一人の姜維も勝とあつたを安んぞ魏

と破ると得んと安定郡の人や呼ぐ問て曰く姜維へ母
 事孝行ありといひしが今母何くある答て曰く姜維が
 母へ奠城の中あり孔明又問て曰く夫の金の銀兵糧を
 と貯へる何の城ぞ答て曰く天水郡の兵糧一切の用物
 尽く上邽の城あり孔明をあち魏延とよびせ汝一軍を
 引と奠城をむふと沙汰せよと姜維もらむ行と母
 と救ふそのとれたまを遮るとさくふのまは入りや又霜雲
 をよび寄て汝一軍を引と速く上邽の城を攻りかやうく
 又計をよせといひけしと二人兵を引と打向し孔明へ天水城
 と攻む三十里ありぞひいて陣を取けしと魏の細作の趣き
 いとぎ城中を回ると太守馬遵見へ今孔明陣とまりぞけたる

兵を分て。上邳冀城を攻んたりありと告げし。姜維は
志んぞ中けり。今某が母冀城あり。是敵をばやうと
ろとたへ子たるの道とむ。願くは某一軍を引て冀城
をまとい且母を守るべし。馬遵は従ひ姜維を三千余
騎を副て。冀城を遣し。梁虔は三千余騎を付て上邳を
まといし。姜維よろらび冀城をまといし。蜀の軍
勢路をまきり。魏延真先は馬をまきし。姜維鎗をひし。つ
て突て蒐り。二人志をたたく。魏延詐つて逃げし。姜
維は城中をまき入り。老母を守護し。城を出て趙雲へ
すて。上邳の城をひけるが。梁虔兵を引て救のため
来りけし。態し。志りてひて城をまきし。孔明へ南安城を

人々遣し。先は生取まきたる。夏侯楙をとりよせ。汝命を
むくと問けし。夏侯楙拜伏して曰く。丞相の慈悲ゆゑ
二のあまき命を保たば身と終るまで志まひ。孔明は曰く。今
天水郡の姜維と。令の冀城をまきりたるが。使ゆひて書
簡を送り。夏侯楙を赦し。蜀を降らんとの
ぞむ。志しよすりて。汝が命を助く。早く行て。姜維を伴ひ来
れ。志くると。其の味方の大将とせん。夏侯楙は曰く。某は
冀城へ行。姜維をまきりて。其の来らん。孔明をまきりて。衣食を
あて。馬をまきりて。夏侯楙は一騎路を尋ねて走る。不
おちくの百姓。志し。躡で逃るものあり。夏侯楙問て曰く。汝
ホ。何の志で。答て曰く。志し。冀城の百姓あるが。いま

姜維城をひらく。蜀は降る。蜀の大將魏延兵を引く。乱を入り。火をたふして。家に入ると財宝を掠む。その人々も亦家をとめて上邦へ走る。復侯楙が曰く。今天水郡の城主はある。のぞかて曰く。太守馬遵あり。復侯楙はもとよきまらそ。天水の城はむらぐ行ふ。又多の百姓ある。けんて老たると扶けのけあまを抱き。終つて逃走。復侯楙その人を問ふ。とあまをゆのどく。答はく。おのの姜維が心替まてとあり。とあまひ天水の城下は行く。門をひらく。まかりけし。太守馬遵あり。とて。復侯楙あり。けんて。おどろひく。地は再拜して。その故を問ふ。復侯楙が曰く。蜀は蜀の兵は生捉はしが。番のゆるせると。同て逃来り。冀城

の姜維とて。城を開く。蜀は降る。汝とて。ありたる。馬遵おどろひく。曰く。ちんぞ量らん。今姜維が蜀は降らん。と。復侯楙とあま。とて。百姓の語り。を告げし。を梁緒が曰く。何条は。姜維が。ん。變ひ。とて。復侯駙馬とて。ん。為。詐り。と。降る。あらん。復侯楙が曰く。と。あま。初更の比。と。よん。で。俄。蜀の軍勢。四方より。あ。よ。せ。業。を。積。で。火。を。け。一人。馬。を。お。ど。らせ。鎗。を。よ。ま。と。大。音。あ。げ。と。と。冀。城。の。姜。維。あり。城。中。の。人。こ。よ。り。と。な。ま。り。あ。り。と。よ。り。け。れ。ば。太。守。馬。遵。復。侯。楙。と。矢。倉。の。上。より。と。る。姜。維。城。外。に。威。を。振。ひ。勇。を。逞。ま。り。と。復。侯。駙。馬。の。命。を。も。と。り。て。



蜀

夏侯楸

夏侯楸
天水
城下

さて蜀は降参す。今城を開く。蜀は降りて
といひけむ。復侯楨曰く汝は魏の恩を受く。あま
て。今蜀は降参する。姜維曰く汝は蜀の恩を受く。あま
よといふ。身を脱ぎ。今却る。あま。我は蜀は降
めて重く用ひらる。安んぞ。魏は回らんやとのしり。兵は下知
し。城を攻させ。曉まよん。今夜の姜維は孔明
が計とま。詐り人。姜維は仕立大の光の中。ま。真
偽を二分が。孔明は。兵は引て。冀
城ま。よせける。元より。城の中。兵糧乏。兵を
餓や苦しむ。さ。敵を。為。大小の車。兵
糧を積で。魏所の陣屋。姜維矢倉の上より

と。斬り。三万余騎を引く。城を出兵糧を奪
んと斬り。けむ。蜀の勢。車。逃走。姜維車
を奪り。回らん。と。姜維を。蜀の大將
張翼馬を飛。計。姜維を。蜀の大將
下知。又蜀の大將王平一軍を引く。取廻
と。姜維小勢。拒。路を奪。城中。かへ
らん。蜀の大勢。入替。の旗。たて
あら。魏延内。斬。姜維。討破られ
圍。天水の城。走。相。勢。十騎。を
り。又張苞が。卷。中。駢。通。けむ。
た。一騎。討。馬。飛。天水の城。下。到。り。門。を

らけとよびりけよべ城中の士卒。その由を馬遵に報を馬遵
が曰く。おれは姜維の城の門をひらう。蜀の勢を引入ん為か
る。只射殺せし。雨の降どく矢を放し。姜維おどろひと
る。冀城の姜維あり。敵を追よと。逃来より。卒尔志ある
と。よびりけよべ馬遵大に笑ひて曰く。汝を蜀に降り。昨夜
あよ来りて。無禮とは。今又よびて欺ん為うと。さしめ引
つめ。さんぐよ射る姜維めきれ果く立し。蜀の大勢追
来りけよべよまぎり。馬を飛せ上邳の城下。到りて門を閉
けとよびる。まよと聞く。大将梁虔矢倉よ上とのぞき見る
蜀の軍勢おびり。向ひ来けよ。姜維匹夫の来と。
よびてあざむんとする。我を蜀に降せよと。まより

しひと。鏃を揃へさんぐよ射る姜維か。よと。事の子細
をまら。ゆべ敬馬き迷く。谷のまき様あり。しる。両眼涙を
含く。又長安へと。まよびて走る。まよ。茂りたる林あり。喊
の声地を動し。投子の軍馬討く。出たり。まよ。蜀の大
将関真あり。しる。姜維馬疲し。戦ふと。あたる。引回
と。走る。まよ。又一軍路を塞ぎ。一輛の四輪車をおし。出りて孔
明綸巾をひき。鶴氅をき。手よ羽扇と持し。端坐し。姜維
あよ。至る。まよ。どあろ。降参せざると。よびりけよ。姜
維あよ。しる。後。関真あり。前。孔明あり。逃る。まよ。叶ま
し。まよ。馬より下と。降人。孔明のまよ。車より下り
礼をあひ。まよ。敬ひ。我草の廬を出て。より。以来。あよ。孫く

天下の賢才を求め平生習ひ置たる兵法の大事を授けんと
ちのひらくとも卒にひきよその人を得む。今御辺にあて我
願ひ足り。まゝらむを兵法を御辺に傳ふ。よく忠を尽し國
を報ぜよと。いひけしむ。姜維の志を感し再拜し。まゝに
ど喜ぶ孔明とあち本陣を回り天水上邽を取の計とせ
議しければ姜維が曰く天水の城中に尹賞梁緒とありその
あり。二人とも其とありく交るは。尽簡をのりて城中
へ射入る。戦ひをく。自然に乱る。孔明志くべしと。よろ
さびけしむ。姜維とあち。二通の尺簡を矢に拴り城中を
射入しける。軍士とて得て。太守馬遵と其へけしむ。馬
遵ひらき見と。大にまどろき。復侯楨とくしける。梁

緒尹賞二人姜維と志を合せ内應し。蜀を降らんとも。
を争ふよび出しく。首を刎べしと。使をのりて。まはまける
尹賞ひらき。大の由をきて。梁緒と議し。しりける。我亦と
ど大死せんす。いさや門をひらいて。蜀を降らん。を争用
意を。せよと。いさや。復侯楨使をのり。さす。ぬまけしむ。二人
大に怒り。物の具ひりぐと固り。手下の勢を引く。本陣を
討つ。入り。門をひらいて。蜀の勢を引けしむ。復侯楨馬遵
をんまき。ちり。さ。ひら。百十余騎を引く。羌胡の城へ逃れ
る。孔明天水の城をのり。取。梁緒尹賞をちり。賞。上邽を
取の計を問けしむ。梁緒が曰く。上邽を守る大将。其が弟
の梁虔と。し。の。ち。り。其。保。ぐ。く。を。城。を。入。と。よ。び。来。らん。

孔明志うとんと喜びけしむ。梁緒もつら城中入り。梁度
と門をひらいて降参す。孔明もあちの恩賞を興へ。梁緒と
天水の大守と。尹賞と。冀城の令と。梁度と。上邽の令と。
大軍長安をさし進發す。謀將問て曰く。復侯楨いよ美
胡の城を逃籠るまんどまどと生取めぬ。孔明が曰く。我復
侯楨を放つべし。一幻の鴨を放つべし。今姜維を得とるべし。
鳳凰を得がべし。古より千兵易得一將難求と有り。まどよ
く姜維が軍立とせる。計とまどまどと叶へり。まどの悦
喜ぶととあへど。今三郡もとる得とり。都を攻る難きとあ
しとく。巴も祁山も出張す。

孔明祁山破曹真

蜀の建興五年の冬。孔明とて天水南安安定の三郡を攻り。
冀城上邽ととくくも落す。その威遠近をまびら。大軍を
て。祁山も出渭水の西。陣を取けし。謀方の早馬洛陽へ
急を告ると。雪のととる。まのとと魏の太和元年。曹叡は
のよしとまのく。大もどる。群臣とあちや評議しけし。司
司徒王朗列を出生て曰く。復侯楨やぶと。孔明いよく勢か
このる。臣も先帝の軍を志めし。大將軍曹真向
不らちらむ。敵をやぶる。今まのくを大將とく。蜀の勢
を退治する。曹叡志うとんと。曹真をよび出し。先帝危
のぞんで。孤子を汝も托す。今蜀の兵攻入と。復侯楨とて
ぶと。汝も今行くまどを退けよと。いひけし。曹真が曰

臣才淺人少。その職を称す。王朗が曰く。將軍はもと社稷の
 臣。ちやうどむらたむ。辞退志あり。今も某不才のゆゑ。ども共打向ふ。と
 敵を破らる。曹真又奏し。くつりける。臣久しく國恩をうく
 務め。くち不才を顧む。命を棄て。敵を破らる。一人の副將
 軍を付ぬ。曹叡が曰く。卿とて。副將とせん。曹真が曰く。太
 原陽曲の人。射亭侯雍州の刺史郭淮。あざむく。伯濟を伴行
 する。曹叡をたふし。志とがひ。すまはら。曹真を大都督とす。節鉞
 をたまひ。郭淮を副都督とし。王朗を軍師とす。王朗字を子
 真。東海郡人なり。漢の獻帝の時より仕へたる。年七十六歳
 あり。曹真をたまはら。洛陽長安の軍勢二十万騎をたは。舎弟の
 宣武將軍曹遵を先手とし。盪寇將軍朱讚を副先鋒と

一。十月、都を起け。魏主曹叡が。西門の外に送る。
 大軍をた。長安の涇水の東に陣を取。計を繕ひ
 け。王朗にけり。明日兵ととの。隊伍をた。旗をひ
 ら。き。る。人。を。と。む。け。ら。出。と。只。一。言。の。下。に。孔。明。を。降。泰。せ。さ
 せん。志。を。と。た。へ。蜀。の。勢。戦。へ。ど。し。と。乱。る。と。曹。真。志。を。と
 して。蜀。の。陣。を。使。を。立。と。戦。書。を。下。し。明。日。勝。負。を。決。せ
 ん。と。ら。ひ。遣。し。夜。の。四。更。の。ま。ろ。女。糧。を。使。ひ。夜。あ。け。と。兩。方。の
 軍。勢。祁。山。の。前。に。陣。を。張。三。通。の。鼓。を。あ。ら。し。け。し。と。孔。明。敵
 の。陣。を。の。ぞ。も。と。ん。る。と。魏。の。勢。を。た。雄。壯。と。し。と。復。侯。楙。が。ひ。と
 立。と。へ。事。易。し。り。と。ま。き。軍。師。王。朗。馬。を。出。し。左。右。を。曹。真。郭
 淮。を。と。る。人。孔。明。を。あ。ゆ。と。一。言。を。し。と。と。よ。づ。り。け。し。と。蜀。の



陣中門旗さしひらけて。関良張苞左右に分ると馬を躍
らせ。一隊の大將次第を乱さず。両辺を走。孔明四輪の車
端坐し。綸巾をひきまき。鶴氅を被り。手は羽扇を握り。中央
よりか。生しく向き。山とのども。使てゆいて。漢の諸葛
相ありあり。王朗出よとよび。らせけし。王朗ちうぐと馬を
出し。孔明す。まが一言ときき。我はさし。御辺の右とき
て。今幸にあふとて得たり。御辺もより。天命ときり。す。當時
の務め。志る。あふ人の無名の師と。ま。けるぞと。ひけし。孔
明さ。と。曰く。ま。勅命と受て。逆臣と誅を安んず。無名の
師と。いふ。王朗が曰く。天數へ変あり。神羅あらた。易く。天と
ま。徳ある人の。般と。ま。定む。道理あり。昔桓帝靈帝より

以来四海より。れ。あ。ら。し。ひ。覇王と称するもの。その。扱。あ。げ。く。計
ぐ。し。黄巾へ。鉅鹿を。縦横し。張邈へ。旗を。陳留を。あげ。袁術へ
帝号と。壽春を。偕し。袁紹へ。鄴土を。王。称し。劉表へ。荆。及。ま。據
呂布へ。天下を。虎の。と。く。ま。吞。その。外。群盜蜂の。と。く。起。り。奸雄
鷹の。と。く。ま。揚。る。社稷累卵より。も。危。く。民倒懸の。苦。を
受。志。り。る。不。あ。我。太祖武皇帝六合を。ま。ら。ひ。清。く。八荒を
席の。と。く。ま。捲。万民を。救。く。四方を。ま。その。徳。を。仰。ぐ。是。權
を。ゆ。ひ。て。取。ま。あ。ら。む。実。ま。天命の。般。と。る。不。あ。世祖文皇帝
神文聖武大統を。受。く。天。ま。應。じ。人。ま。志。と。ぐ。ひ。堯の。舜。あ。ひ
り。ゆ。ひ。例。ま。あ。ら。む。で。中國を。保。ち。万邦を。懷。く。され。あ。る。天
心。人。意。ま。あ。ら。む。や。御。辺。い。ま。大。才。を。抱。き。ま。ら。ら。管仲樂毅

又比せんとすとふんぞ伊尹周公の効く。その功を百世に傳せざる
たのめ人志の事を行ひ天理をむき人情をさかむ古人も
順天者昌逆天者亡とのり。今も大魏雄士百万大將千
負むく不泰山のめりて卵を壓ぐと量るも汝腐草の螢
火いそろ我天上の明月もあやをん御辺を甲を解て降泰
せよりあらむ封侯の位を得ん志くるとは國安く民治りく
共々太平と喜ぶべしといひけし蜀の軍勢もとやみく嗟
嘆しく已む道にかるる詞くあは感どける孔明は是と
まいて黙然としくもの言をもあざ笑ひて居りけし蜀の
參軍馬謖さろの内もあひける昔季布といひし漢
の高祖と罵りてその陣を破りしが王朗いまその計とを用ひ

たり孔明いさ口をひらくべきと。色を失くさき山とんれば
孔明車の上もあつて大笑ひ色をあげてしける。王朗も
うが言ときけしとまどめ汝の漢朝の旧臣あるべし定ていさ
ぎよた高論あらんとあひひく量ちざりき浩る大逆の言
を吐んとへし一言あり。両方の軍勢志のまきけ。昔植帝
靈帝微弱しく。漢統陵夷。國乱と年凶と四方尽く
騷乱と段圭と平津と斬けし董卓又出と朝野とたり。
四寇尋ぐ起と。漢帝と民間とらうの生民を溝壑と殘暴
と。廟堂の上も朽たる木とめりて宮殿と。陛階のあひど
よへ禽獸とめりて禄と食とや狼心狗幸のともぐら。むらぶ
めて道もあそり。奴顏婢膝の徒めりまろと政どと。社稷

之のいで丘墟と。生靈を塗炭と。我もとす。汝を志る世
 世東海の濱に居く。まじり孝廢に攀ら。漢朝に仕く恩を
 受たの更な道と。論ぜ。汝ひと人。君と匡く。國を輔け。漢
 と安んじ。劉民を真と。心まじ。とある。あんど。逆臣に事。と
 め。位を奪ひける。汝が罪天地の間。又容る。四海の人。と
 と。ぐく。汝が肉を生ち。ぐら。啖んと。む。今幸。天子の勅
 明を世に出。の。入。た。あ。漢を。さ。さ。る。も。天子の勅
 命を。受。順。の。いで。逆。と。討。義。よ。の。いで。師。を。出。た。汝。へ。た。れ
 韶。神。の。臣。ち。り。只。身。を。ひ。と。ち。首。を。ち。ち。ち。衣服。を。求。く。食。を。ひ
 さ。ら。り。怒。又。耽。り。く。家。を。居。き。何。と。と。陣。前。に。出。く。たり。り
 舌。を。動。し。天。数。ち。り。と。へ。り。皓。首。の。匹。夫。蒼。髯。の。老。賊。年。已

又七十。あ。や。り。ぬ。ま。べ。不。日。に。定。て。亡。ぶ。一。黄。泉。の。下。に。い。と
 の。く。あ。ん。の。面。目。あ。り。く。漢。の。二。十。四。帝。を。見。ゆ。ま。き。老。賊。を。身。
 志。り。ぞ。け。我。逆。臣。を。誅。せん。と。ま。づ。り。け。且。王。朗。を。と。ま。き。ん
 て。ん。や。愧。ら。り。けん。氣。塞。め。て。動。く。と。あ。ま。も。苦。げ。二。色
 さ。け。び。け。る。が。馬。より。さ。り。さ。ま。る。落。く。死。ん。ど。り。け。り。孔。明。扇
 を。あ。げ。く。曹。真。を。ま。ひ。ひ。ま。と。今。人。の。喪。の。の。いで。ま。さ。う。に。戦。ひ
 を。せ。や。う。と。ま。は。汝。を。再。び。兵。と。の。よ。明。日。雌。雄。を。決。ま。す。と
 と。ら。め。と。車。を。回。し。去。け。且。曹。真。の。を。ま。き。王。朗。が。屍。を。お。さ
 め。送。り。く。長。安。へ。ぞ。上。せ。け。る。副。都。督。郭。淮。を。け。る。ハ。孔。明。の
 ま。志。り。ぞ。ま。た。なる。ハ。王。朗。が。死。し。る。に。乘。り。今。夜。ち。ち。ち。夜。討
 せん。と。の。ん。ち。ち。ら。ん。味。方。の。勢。を。四。手。に。ま。け。二。手。ハ。本。陣。の。う。と

たらしめる山間やまのに伏置敵ふせちまての来るきこて後うしろより困こて却かえて二手ふたての兵へいを小路こみちより廻まり。虚まよのみと敵てまの本陣ほんちんを攻せませよ。これ備そなえを攻せまるの計まがらう。曹真そうしんよろあび。其の計まがらう。まがらう。ちえり。先手さきの大將たいしやう曹遵そうじゆん朱讚しゆざんをよんごやける。汝なんぢ二人ふたりはとのよ。二万ふた余騎よの勢せいをひきいひ。ひける。祁山きしやんの後のちをよめる。蜀しやくの陣ちんを伺うかがひ敵てまは陣屋ちんやを出いで。夜討よちうをきたらる。その虚まよのみと攻破せめやぶ。二方ふた一敵いち出いで。とちる。ん。輕かろく。進まる。早はやく。引ひく。回まり。といひけし。二人ふたり計まがらう。受うけ。左右さゆう分わけて。せむり。曹真そうしん又また郭淮かくわいをける。我われホ二人ふたりの二手ふた分わけて。陣屋ちんやの外のちに埋伏うりふくし。陣中ちんちゆうに柴しばを積つむ。蜀しやくの兵へいは士卒しそを殘のこし。敵てまのきたる。と。火ひを付つけ。あつと。合圖あひづに討うつ。出いで。と。

用意よういとく。備そなりけし。敵てま今いまやきたると。四方しやうに伏ふせ。待掛まちかけたり。此こゝに孔明こうめいの本陣ほんちんを回まり。趙雲しやうゆん魏延ゑいぜんをよび。汝なんぢ二人ふたり兵へいをそら。魏ゑいの陣ちんを夜討よちうせよ。といひけし。魏延ゑいぜんをける。曹そう真しんの深く兵法へいぽうに通つうむ。今日こんにち王朗わうらうを死しした。敵てまの喪もの。引ひて攻来せりまらう。と。量はかり。加からう。と。用心ようしんと。孔明こうめい曰いく。ま。曹真そうしん。蜀しやくの勢せいの夜討よちうをすることをあらせんと。秘ひにまらう。う。必かならず。祁山きしやんの後のちに兵へいを伏ふせ。味方みかたの勢せいの夜討よちうを出いで。窺うかがひ。却かえて。その虚まよのみと。味方みかたの本陣ほんちんを取とり。巧たくみに。汝なんぢ二人ふたりは。兵へいを引ひく。夜討よちうをかる。体ていをえ。魏ゑいの勢せいをあらす。来まりて。其の本陣ほんちんを攻せまべし。ま。その時とき。火ひをあげ。合圖あひづと。ま。二人ふたりは。引ひく。魏延ゑいぜん。山際やまのの路みちを。ま。趙しやう

雲の兵を引く。敵の後より攻破し志ひくあまされ討とる。敵らるるを自ら乱るべしといひけり。二人兵を引く出まけり。孔明又関兵張苞をよび汝二人へ兵を引く。祁山の險阻を埋伏し。魏の勢の通り了て之を却く。魏の本陣へ攻め、れといひけり。共計とて受て出まけり。孔明又馬岱王平張嶷三人をよび計とて授く。陣屋の外に伏置本陣の柴を積ぐ。敵の来ると火を付く。合圖を志し。今やくと伺ひる去程にて。陣屋の後を截とく。今やくと伺ひる去程にて。魏の先手の大将曹遵朱攢へ二万余騎を二手にまけ昏方より出く。ひそる。祁山の後をまもり。夜の二更のふる谷の内を伏く。のぞきとる。蜀の軍兵おびへしく。陣屋を出て夜討

又向ふ体ありけり。曹遵の内志をやりたりとよろ。の通り終るを待く。きり兵を下知し馬を飛く。蜀の陣中へ蒐入ける。人ひたりもへざりけり。あやうく退ひく出んと。とる。俄に火の光天を焦く。朱攢も兵を引く。せ来りける。火の光も急退ると。合さる。早たぐひも上て下へ。むぐまき踏殺さる。もの杖をさる。早四方に喊の色をあげく。蜀の大将馬岱王平張翼張嶷一斉に討く。出めまされと。探たり。魏の勢志を討れ。曹遵朱攢へ。百騎をかり。走り。忽ち鼓の色地を動く。趙雲が一軍路をさき。賊將何へ逃る。を争く首を渡せと。よづり。さんぐ。攻けし。曹遵朱攢を



關真

關真



關羽の
神靈の
威勢の
勢と敗

越吉九師

くく逃るる。又魏延が軍路を塞ぎ、引色んぞ攻なり。五六騎は打あされ、やうく本陣をさし、逃入ける。本陣を守る兵ども、蜀の勢、夜討に寄たりとて、あそび合圖の火を付し、是をえ、左より曹真をぎより郭淮とき、作れ討て、曹遵、朱續、中へ取、大々同士討せり。と数刻あり、相統と蜀の軍勢、追来り、中央より魏延、左より関、真、右より張、苞、い、き、を、ひ、の、め、攻、入、け、し、魏、の、大、勢、だ、と、さ、へ、ぎ、蛛、の、子、と、ち、ら、さ、と、と、く、十、里、志、の、ど、い、と、ま、り、け、る、が、討、と、る、大、將、多、り、け、り。

孔明大破鉄車兵

曹真今夜の合戦、兵大半討せり。此の陣を孔明は奪ひ

とければ、氣を失て再び戦へんとさる。んま、副都督郭淮、中ける軍のさるは、勝負はたれ、兵家の常なり。負たりとて、もうあらたに弱とせむ。某の計とあり、蜀の兵前後を度て、失する。おののけら、乱る。曹真が白く、い、ち、ち、る、計、ど、郭、淮、が、曰、く、西、羌、の、夷、へ、大、祖、武、帝、の、御、時、より、毎、年、貢、物、の、と、奉、て、文帝、又、た、お、へ、ど、恩、を、施、し、り、我、ホ、い、ま、險、阻、を、前、よ、あ、て、日、と、送、り、西、羌、の、夷、を、ら、と、ら、ひ、孔、明、が、後、より、攻、ま、せ、と、さ、し、を、さん、で、兩、方、より、か、ら、ら、べ、山、豈、勝、た、と、い、の、理、あ、ら、ん、や、曹、真、志、く、ん、と、喜、び、重、宝、の、贈、り、の、と、用、意、し、西、羌、へ、使、を、下、し、け、る。ま、の、西、羌、の、夷、と、し、の、國、王、徹、里、吉、公、と、し、曹、操、が、と、た、より、貢、物、を、さ、げ、文、官、は、雅、丹、丞、相、と、い、ふ、の、あ、り。

武將^{ぶしやう}越吉^{えつきち}元師^{げんし}といふもの青眼^{せいがん}黄髯^{わうぜん}身の丈^{とけ}一丈^{いちじやう}重^{おも}き
 百斤^{ひゃくじん}を作^{つく}たる鉄^{てつ}の錘^{つち}を使^{つか}ひ万夫^{まんぶ}不當^{ふたう}の勇^{ゆう}あり。その日^ひ魏^ぎ
 の使^{つかひ}金銀^{きんぎん}珠玉^{しゆぎよく}をさげと先^{まづ}雅丹^{やたん}丞相^{せうしやう}を見^みへ曹真^{せうしん}が唇^{くちばし}
 を呈^{てい}しけしとて雅丹^{やたん}丞相^{せうしやう}との贈^{たま}りものと受^うけり。國王^{こわう}王^{わう}まよそ人^{ひと}と
 唇^{くちばし}のちのむきを結^{むす}る徹里^{てつり}吉^{きち}いをさぎ越吉^{えつきち}元師^{げんし}をよんご是^{こゝ}
 りを義^ぎしけしとて越吉^{えつきち}元師^{げんし}トけろと君^{きみ}久^{ひさ}く魏^ぎの恩^{おん}を受^う
 り。兵^{へい}を起^たしと救^{すく}り人^{ひと}某^{たれ}羅向^{らかう}と忽^{たち}ち蜀^{せき}の勢^{せい}を打^{うち}
 破^{やぶ}り。根^ねを断^つと兼^とて枯^くさん徹里^{てつり}吉^{きち}とよまごらひ羌胡^{きやうこ}の
 勢^{せい}二十五^{じふご}万^{まん}をあめり。雅丹^{やたん}丞相^{せうしやう}と相副^{あひたご}魏^ぎの使^{つかひ}と共^{とも}よりち
 立^たしむ元^{もと}より羌^{きやう}の軍^{ぐん}立^たいよの川^{がわ}に事^{こと}替^かりて弓^{ゆみ}弩^こ鎗^{しやう}力^{りき}
 鉄^{てつ}蒺藜^{じりり}流星^{りゅうせい}錘^{つち}をよく使^{つか}ひ又^{また}軍^{ぐん}の車^{くるま}あり。その車^{くるま}へと鉄^{てつ}

をわのて表^{あは}をつとまきびく大釘^{おほくぎ}の鏡^{かがみ}ありと。毛^けの正^{ただ}くさしあめり。
 その内^{うち}に兵^{へい}糧^{りやう}武具^{ぶぐ}を貯^{たくわ}へ。駱駝^{らくた}の馬^{うま}を付^つけ。あめりへ驛馬^{えきば}をを
 せと一息^{ひといき}に数十^{すうじ}里^りを走る。あめりよふらるもの碎^{くさい}と。みぢんよあ
 らざるはし。その人^{ひと}は鉄車^{てつしゃ}の兵^{へい}と号^{ごう}を已^やに圍^いを立^たて蜀^{せき}の西^{せい}
 平関^{へいかん}を攻^せりけしと関^{かん}を守^{まも}る蜀^{せき}の大將^{たいしやう}韓禰^{かんねい}を馬^{うま}を引^ひて
 孔明^{こうめい}に報^うを孔明^{こうめい}とよとまきと。諸^{しよ}大將^{たいしやう}をあめり。誰^{たれ}を指^さ
 向^むて羌胡^{きやうこ}の勢^{せい}を拒^かげしめんと。いひけしと龍驤^{りゆうせう}將軍^{ぐんじん}関^{かん}真^{しん}
 虎翼^{こよく}將軍^{ぐんじん}張苞^{ちやうほう}ひとしと出^いて曰^{いは}く某^{たれ}ゆへを去^さる。孔明^{こうめい}が
 ちく汝^{なんぢ}二人^{ふたり}を彼^{かの}土地^{とち}の案内^{あんない}をあるは。馬^{うま}を西^{せい}涼州^{りやうしゅう}にありと。
 羌胡^{きやうこ}の意^いをまき。汝^{なんぢ}二人^{ふたり}馬^{うま}を案内^{あんない}者^{もの}と。精^{せい}兵^{へい}五
 万余^{よまんご}騎^きを率^{りつ}し。ち行^いく。西^{せい}平関^{へいかん}をまめれといひけしと。三人^{さんにん}

兵を揃へ路をいそぎ板日とまきこ。早菴胡の先陣の勢寄
 きたりけし。関真まが百騎をかりて志とて山の上くのぞ
 見る。又菴の軍勢蜂のむらがるごとく。彼鉄車をまてて首
 尾をひらね車の上へ鎗薙刀をひくとあひあ。あとも城を
 見るがごとくあまへ関真まを破るまき計ちく本陣より
 張苞馬岱と評議する。馬岱が曰く。まが一軍し。敵の虚實
 を伺ひ。そのちと計とを議せんと。次の日早天。五万余騎
 を三手。分関真中軍をまて張苞馬岱を左右。まを充
 作のまを葱けし。忽ち皂き鵬の羽乃旗山まをびり野まを
 と。菴の軍兵おびにしく討く。大将越吉元師手。鉄の鎚
 をひらげ腰ま宝鵬の弓をけ馬を飛し。真先まをまけれ

へ関真三方の味方とまねき。鋒先とあらまて討く。かると
 菴の陣より。彼鉄車をまあひと。潮の湧がごとく。勢とま
 と。雨のどくまへ。蜀の軍兵車まくだと矢ま中と。さん
 ぐ。又乱とけり。張苞馬岱拒ぐまき力あく。やうくま退ま
 けるが。関真が一手ひら。たりけん菴の勢ま。とりまめら
 と。出んとまれど。その困鉄桶のまがひたご。卒ま西
 北の角ま。付ら。鉄車をひら。四方と。とりまへ。なま
 蜀の勢あ。つた。まき討く。の麻のぼ。関真ま一騎
 山まの谷の谷の中へ。逃りけま。日ま。夕陽ま。ま
 菴の軍勢。くろま旗をひら。大将越吉元帥鉄の鎚
 をひら。まげ馬と。ま。追強小將のま。へ。逃るとま

けむべ関真をどちどろき鞭を加へて走りけるが前より
 洞ありけむべ是亦多く引回し越吉元帥と戦ふんとを
 るみつるよおそげなる刑さまたりければ又と引回し
 澗の中へ馬のり入るとり越吉元帥をや追付て鉄鉮
 を打付けると関真身をそむめく避んとしけむべ乗た
 る馬勝と打と澗の中へたれ死を関真も水中へ落し
 るが後よめのひびく音と越吉元帥馬と共にたれし
 るべまゝ起あがりてえるよ誰とも知らぬ一人の大將岸の
 上へ馬とどろせ続く巻の勢と四角八方へまろちらと関
 真刀とりおとし越吉元帥と切んととむべ早どろまんと
 逃とりける関真の馬と奪く岸より上り四方をのぞくと

ばさるよえとろし大將あて巻の勢と追駈るよの人らあはれ我
 めやうき命と助く敵と追拂やらん對面せをやとむのひ
 馬とせせく近付けよ只隠たる雲の中へ一人の大將あり
 面へ重束のどく眉へ卧蚕のじと緑のひまを著く金の鎧
 と重ね青竜刀と右へひのさげ長き髯を左へ握り分明は是
 父の関羽と見えけむべめやと問んととむれば彼人手
 とめりて東南の方をさし吾子を命とすの路より回るといふ
 一陣の風吹起り容へ見えむるりよけり関真ふりこのちのひは
 父の教よませと走けむべ夜半に至ると忽ち一軍をせ来るよれ
 るち張苞あり張苞問て曰くさたよ御辺へ父よあひりや
 関真が曰くいゝとまりする張苞が曰く我さたよ鉄車の兵



孔明の
雪中
鉄車の
兵を
慶す



て着の陣ちか又またよとる。着の軍勢ぐんせい加の鉄車てつしゃとせし。潮うしほ乃なほ
湧もがどくと進すすとけよ。姜維きやうい引返ひきかへとて逃走たうそうる。着の勢せい加
のよ乗のりと追掛おっけ蜀の陣中しやくちゆうへ攻入せうりけるが虚むなしく旗はたをりあ
ゆぐ。人ひとひとりもえとぞと。あ命いのちと。いまだ進すすきて時ときすべし。
十二月じふにがつの末すえまよ。朔風しやくふう凜りんとと。雪降ゆきふり姜維きやうい
又また討うと出いけよ。着の軍勢ぐんせい鉄車てつしゃとせと。攻せう蒐そうる。姜維きやうい
一戦いっせんも及およばずと散さんと走そうと。陣屋ちんやの内うち又また入門にゅうもんと。閉とぢと。し
ろより逃走たうそうけよ。着の勢せい五六千騎ごふせんき追蒐おっそうと。陣屋ちんやの前まへまで
来きり。門かどの開ひらたると。命いのちと。内うちの体ていと伺うかがひ。人ひとひとりも
へどと。琴ことと弾ひ音ね文ふみけよ。疑うたがひと進得すすと。ま。越えつ吉きち
元師げんしまの由よしと報あやを。越えつ吉きち元師げんしもあ。猶なほ豫よと。いまだ進すす

がりけよ。雅丹がたん丞相せうしやう白しろく。又また孔明こうめいが詐いつはりの計けいとみて。人
と疑うたがへ。蜀しやくの陣中ちんちゆうに打うち入いけよ。孔明こうめい車くるまに乗のりと。琴ことを
携たづへ。五六騎ごふせんきと。志したが。陣ちんの後のちより逃走たうそうる。着の勢せいの「世よ」と追お
うけ。よ。孔明こうめい志しのく。と車くるまを。あ。せ。隠かくと。林はやしの中ちゆうへ藏かくと
入いり。雅丹がたん丞相せうしやうあ。ぎ。笑わらひ。よ。孔明こうめい鉄車てつしゃの勢せいひ。あ。を。る
るもの。ち。う。た。と。ひ。伏兵ふくへいあり。と。何程なんぢやうの。り。と。仕つかさん。
只平攻ただへいこうと進すすと。下知げちと。馬うまを。早はやめて追おる。姜維きやうい又また雪ゆきの中ちゆう
より兵へいと引ひと。討うと。出いと。越えつ吉きち元師げんし大だいに怒いかり。鉄車てつしゃと。誼ぎと
進すすける。山路さんじゆの。と。に。挾せままる。と。通とほる。と。向むかへ。望のぞへ。遙とほと。平へいと
たる原野げんやあり。雪降ゆきふり積つと。敵てきひとりも。え。と。ざ。り。け。よ。着の勢せいの大

軍鉄車を連袂勢ひよのめて廣野を出入とせたりける。忽然としく鼓の音天をひびき喊の音地を動し大山の崩る。皆陷穴を落入り人馬いやが上より重り坂を下り弛る。鉄車も六前の難儀をも云をせ落し。まきうり引回すとまきやうあけよべ押潰さると微塵もあがり。蹂躪らると手足と折上と下へと蠢とあらま左より関真とまきより張苞兵を引く弩を放ち後より姜維馬岱張翼三手に分まこと。殺到し。まきうり攻たりけよ。越吉元師山の上のて走りける。関真を谷の内へ待受一刀を切殺すと雅丹丞相の馬を飛しく逃たりしが馬岱引組ぐ卒を生取孔明本陣を回けよ。馬岱もつら。雅丹丞相を縛り来る孔明まきうり其繩

ととき酒食をあたへて君へ大漢の皇帝なり。まきうり勅命を受て逆臣を誅を汝らんで逆臣の詞をまいて我むじの好てとそれとぞと云けよ。雅丹丞相頓首して罪を謝す。孔明生取を尽く者しく引生物とらせ本國へへけよ。お拜謝しく徳を感ず。おどり喜んで去らる。孔明をあへち。越吉元帥が首を運入る。酒宴を設く喜ひては。又祁山へ回く成都へ使を遣し。表をのりて天子に勝軍を奏しける。まのとき魏の都督曹真の潜水の陣を固く守り。毎日巻の消息を待ける。細作走り回り。只今蜀の軍勢ども尽く祁山の陣を収め退ひて國を回ひと告げれば郭淮しける。定く巻の勢の後と攻るゆ人は陣をひ

まゝのちうらへん味方の勢と二手も分いさやひも乗と追打よ
とどろくと大軍と二手もは曹遵朱攢を先手ととと
飛ぶとく追ふも忽ち喊とどめと作と一鹿の軍馬討と
出すのさへは進む蜀の鎮北將軍魏延あり大音あげて反
賊逃るとあつれとぶり戦ひ三合あらざらぬ曹遵とと
一乃斬く落と魏の副先鋒朱攢も勢ひよのりて追掛
たるも忽然としく鼓の聲天とくだま一手の勢りけ出真
されまもむ蜀の征南將軍趙雲あり朱攢かどろひてま
うと逃んともむと趙雲追りけと一鎗も矢殺も首とと
て指上とり曹真郭淮先手の討とたるときいて急も退
るととれれば後より喊と作と二手の勢討と出とととと

蜀の関兵張苞あり追取まもと探たりけと魏の勢のあり
少も討と涪水の陣へ回らんととるも早蜀の大勢入替り内
外より攻とりて曹真郭淮も命と助り二人の
先手と討ととの中深く衰も再び戦とたまわあけとを
洛陽へ早馬と立と後勢とと求りける

繪本通俗三國志六編卷之八終

